

おらほの会社

日栄地質測量設計(株) の巻



蛭田 浩仙

プロジェクトを展開するなどの活動を行っております。

(1). 会社の概要

当社は、福島県いわき市平に、昭和46年8月に本社を構え、建設コンサルタントとして早44年が経過しました。社名にありますように、地質・測量・設計のフルラインナップで発注者のニーズに答えることにより、地域のインフラ整備に貢献することを品質方針としております。現在の社員数は73名で、いわき本社・郡山支社と原町・会津若松・喜多方・白河・茨城に営業所を置いております。



本社（福島県いわき市）

平成27年8月に高橋肇新社長が就任し、4代目社長と共に新たなスタートを切ったところがございます。いわき本社の他に郡山支社・原町営業所に技術スタッフを配置し、社員一丸となって福島県の復興関連や重要事業の一翼を担っていると自負しております。また、JR関連の業務も得意としており、専門技術者によりその業務に対応しております。

最近の取組みとしては、今後のCIMの動向に追随することを目的として、3Dスキャナ-を導入し測量業務に活用したり、無人航空機ドローンの購入に向けた



【3Dスキャナーの点群データ】

この写真は、JR水戸支社が東日本大震災後、帰還困難区域である相馬郡浪江町の常磐線橋梁の損傷状況把握時に外部被ばく軽減対策として、作業時間を短縮するために3Dスキャナーで橋梁の損傷状況を調査したときのデータです。橋脚が剪断破壊し供用に支障があることがわかりました。

(2). 業務活動状況

【いわき本社エリア】

いわき本社では、主に福島県浜通りを中心に茨城県や宮城県沿岸部の地質調査を担当しています。

阿武隈高原東側の太平洋沿岸部の多くは、基盤岩として第三紀堆積岩のいわゆる「軟岩」が分布しており、その上部を洪積層や沖積層が覆っています。

当社では構造物等の基礎地盤調査のほか、浜通り特有の地質環境に対応し、低地においては軟弱地盤に起因する問題解決のための調査・解析、丘陵地・山地においては第三紀層の地すべりや急傾斜地の崩壊についての調査・対策工検討など、

地場企業の知識やフットワークを活かした地質コンサルタントとして業務を行っています。

また、延長約 166km におよぶ福島県の海岸線に点在する港湾・漁港施設や海岸などの海に関連する業務も多くの実績を有しています。

東日本太平洋沖地震においては、当社も含め福島県の特に沿岸部では地震災害に加えて津波による被害も多かったことから、復興は道半ばであるものの、地域のインフラ復旧に貢献できていることに誇りと自信を感じています。



【調査を担当した震災時造成宅地の被害と復旧状況】

【郡山支社エリア】

当社の郡山支社技術部地質調査課は、技術員 5 名、事務員 1 名にて雨の日も雪

の日も日々、業務に取り組んでおります。その行動力は当社技術部門随一で、福島県内の県北、会津、県中、県南、相双～いわき、さらに県外にまで行動範囲に限りはありません。

ここでは、郡山支社が担当した新潟県との県境に近い会津の山岳地帯での河川内ボーリング作業について紹介したいと思います。

○場所：福島県耶麻郡西会津町 地内

○目的：橋脚設計に伴う地質調査



【ボーリング作業状況】

今回調査ボーリングを実施した河川は、一級河川阿賀川で、調査ポイントは水深約 8~17m と左岸側にかけて深くなるため、スパッド台船 (SEP) を用いた調査ボーリングを提案しました。

ここでの問題点は、スパッド台船の搬入でした。一般に海上で行う場合、極端な水深の変化は少ないが、今回の現場は曳航距離が約 5km と長く、その間の水深は 2~20m と変化に富んでいました。また曳航途中には、廃橋や架線等があったため、スパットの細やかな上下調整が必要でありました。しかし、事前に曳航ルートの深浅測量や地形踏査等を実施し

ていたため、安全に調査地点まで曳航することができ、無事に業務を完了することができました。



【廃橋をくぐり曳航するスパッド台船】

(3). 事業所間交流

当社は、いわき市と郡山市に2つの現業部隊が配置されていることから、全社員のコミュニケーション向上と情報共有を目的として【全社技術研修会】を年1回実施しております。社員による業務事例報告や外部講師による新技術講習等で技術の研鑽をした後、全員で酒を酌み交わし、大いに語り合い、お互いの近況や技術論で盛り上がっています。また、季節毎のイベントとして、【社員旅行】【ボーリング大会】や社屋前駐車場を利用した【芋煮会】を実施して社員間の交流を図っています。



【H27.8.29 全社社内研修会】



【2班編制で長崎・福岡への社内旅行】



【駐車場を利用した芋煮会】

(4). おわりに

震災以降若手社員の数も徐々に増えてきており、ベテランと中堅そして若手社員とがアットホームな雰囲気の中、仕事とレクリエーションを両立し、東北地質業協会会員としてがんばっていたと思います。